

6月中旬から夏休みに入るまでの約1ヶ月間、幼稚園にタイ王国から子どもがきている。タイの学校が夏休みになる期間を利用して、日本に一時帰国するため、ぜひ日本の幼稚園を体験させたいとのことだった。大歓迎である。

集団や組織には、刺激と変化が必要である。子どもたちも職員も、何かしらの影響を受けるはずである。それが、これからの生活を充実させることにつながる。

子どもは、あっという間に仲良くなってしまった。早い。日本の方のお子さんと、日本語を普通に話せるわけだから、当たり前なのかもしれない。だが、それだけではないような気がした。向こうの幼稚園には、いくつもの国の子どもたちがいる。民族も人種もいろいろである。そんな環境の中で鍛えられているというか、自分のことを主張しないとやっていけない側面がある。

お母さんをお願いして、子どもたちの前でタイのことを紹介してもらった。快く引き受けてくださった。タイの食べ物、乗り物、民族衣装、お祭りなどについて写真や動画を使って説明してくださった。日本とタイとの位置関係は、プロジェクターにスライドを投影して教えてくださった。ゾウに乗る動画やお祭りの様子の動画も見せていただいた。

きっと幼稚園児にも少しでもわかるようにと、資料の準備から構成まで考えてくださったのだろう。子どもたちは、お行儀よく聞いていた。やはり興味があったのだろう。初めてのことばかりである。質問はありますか。すぐにさっと手が挙がった。反応が早かった。続けて何人かが質問をした。お母さんをお願いしてよかった。

タイは親日国の一つである。微笑みの国と呼ばれている。世界三大スープの一つであるトムヤムクン、カオマンガイ、ガパオライス、そしてパクチーとタイ料理が浸透してきている。タイ料理店も増えてきた。

もう昔のことだが、旅行でタイに行ったことがある。タイには雨期があり、スコールがある。日本でいうゲリラ豪雨のように短時間で激しい雨が降る。現地でチャーターした車が、日本からの中古車だった。今となっては懐かしい日産ブルーバードだった。スコールが降り出すと車の天井から水滴が落ちてきた。雨漏りである。車で雨漏り、貴重な経験である。

タイのフルーツといえば、ドリアンである。匂いがすごい。とりあえず買ってみるか。買ったのはいいが、ホテルの部屋で、さてどうするかと困った覚えがある。いろいろなことがあっても、何だか楽しい魅力的な国だった。

幼稚園では、早速、カオマンガイとガパオライスをつくって、みんなで食べようということになった。これでよい。